

SG グループ卒業生を囲む公開ディスカッション

- 日時 平成30年11月11日（日）10:30～12:00
- テーマ 「LABO 活動で身につく力」
- 参加者 ・卒業生…3名 ・6年生…2名 ・現LABO 生徒…30名

11月11日に開催された「昭和祭」（文化祭）2日目に、SG グループ卒業生を囲む公開ディスカッションを行いました。テーマは「LABO 活動で身につく力」です。通常のLABO 活動はLABO ごとに活動していますが、今回は卒業生や6年生にもご参加いただき、4つのLABO 合同で総勢35名のディスカッションとなりました。

開会に際し坂東眞理子理事長・総長より「私はこのグローバル時代を生きる人にぜひ皆さんになってほしいと思っています。その第一前提はお互いの違いについて、十分に理解をする。そして自分がどう考えているのか、自分たちの価値観をきちんと話ができる。自分と相手との違いを理解した上で受け入れる。違っていても同じ目標を追求することができる人。そういうグローバル人材を目指してほしいと思っています。今日のディスカッションを通じて自分とは別の考え方をしている人との違いを考えた上で、みんなの共通の課題はなんだろうか。どう協力していけばいいのだろうか。考えてくださるととてもうれしく思います。」というお言葉をいただきました。



〔坂東先生のご挨拶〕

【ディスカッションの内容】

■ ディスカッションの進行

- ・ LABO1～4で活動している生徒をランダムに3グループに分ける。各グループには卒業生1名ずつ入ってもらいディスカッションを行う。
- ・ グループで出た意見を基にLABO 活動で身についた力を今後どのように活かしていくか、今後さらに伸ばしていきたい力をまとめ、模造紙に書き込みグループ発表をする。

■ グループ1まとめ

- ・ 積極性
 - 一番多く出た意見。LABO 活動では講演会や企業訪問の際に質問をする機会が多くあった。その際にしっかりと手を挙げて自分の意見を伝えることや、相手の意見を聞くことで将来的に多様な視点を持つことができる。
- ・ 自分の軸を持つ
 - 卒業生、河津さん：現在就職活動中ですが、どのような進路を選ぶのかを考える際、国内外問わず広いフィールドで活躍する仕事に就きたいと強く感じている。その考えはLABO 活動で企業訪問やシンポジウムで女性リーダーにお会いし、LABO 活動でなければいけない場所、会えない人に会えたことが原点だったと思う。将来を考える土台を築く、軸を持つきっかけになった。
- ・ 頼る力
 - 現在のLABO 活動やその先の未来にグローバルリーダーという大きなテーマで見据えたときに、周りのチームメンバーを頼る力も大切だと感じた。仕事を共有することで、チームメンバーそれぞれの良さを活かすことができ、最終的には全体の成長に繋がると考えた。



〔グループ1 ディスカッション〕



〔グループ1 発表〕

■ グループ2まとめ

- 行動力
→ LABO 活動は自分の意思で参加する活動であり、LABO に参加したこと自体が行動力の表れだと思う。企業訪問では現地に行ってお話を聞くとこで、インターネットや本の知識では得られない問題意識の鮮明化ができる。LABO 活動は全校発表などで発信することに重きを置いているので、行動力向上にも繋がっている。
- コミュニケーション能力
→ ディスカッションの際に自分の意見だけでなく、相手の意見を聞くことで、より良い考察に繋がりディスカッションも活発になる。文化の違いを受け入れる。LABO ごとに海外研修に行くので文化の違いを肌で感じることができる。自分の中で消化し、受け入れることでコミュニケーション能力が高まる。
- 軸を持つ
→ LABO 活動では企業訪問、講演会で様々お話を聞く機会に恵まれている。そのお話の中で自分はどう思ったのか、種々の疑問をもち、自分の意見を考えることができる。そのように思考することで、軸を持つことに繋がり、自信を持ち目標を持つことができる。



[グループ2 ディスカッション]



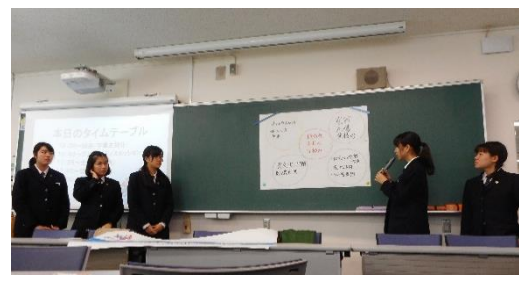
[グループ2 発表]

■ グループ3まとめ

- グループ3では各LABOで身につくかやさらに伸ばしていきたいスキルについて話し合い、全体で共通する点についてまとめた。
 - LABO1
→ 寛容・礼儀・発信力
 - LABO2
→ 違いを受け入れる。・個人のカ・尊重
 - LABO3
→ 異文化理解・臨機応変
 - LABO4
→ 多文化理解・現地訪問・多角的理解
- 全体で共通すること
→ 積極性。自分から挑戦することで経験が積める。現地に研修に行くことで積極的にかかわり固定概念ではなくその国の状況を自分の目で理解し多文化理解が進んでいく。
→ 探求心。自分の疑問をしっかりと持ち、解決策を探り、新たな疑問を増やして行くことで自分の学びが増える。個人を尊重するためには自分がどんな考えを持っているかを考える必要がある。
→ 行動力。LABO で学んだことを用意された場だけではなく、自分たちで発信していく力を得たという意見が出た。海外研修に行き、実際に行かなければわからないこともあるので行動することが重要である。



[グループ3 ディスカッション]



[グループ3 発表]

■ ご参観の皆様より

- 大泉草子前校長
発表を聞いていて心に残ったのは、自分の軸を持つ力という言葉です。今まであまり聞きくことがなかったと思います。視野を広げるとか、海外とのつながりでグローバルに生きていくとはどういうことなのか。ジェンダーギャップを超えていくとはどういうことなのか。というようなことがまず初めの課題だったと思います。そのような課題を考えれば考えるほど、自分はどうか。自分自身は何者なのか。どんな自分になりたいのか。そこが大事になってくるのではないのでしょうか。今日の発表を聞いて、いい研修、探求をそれぞれのアドバイザーの先生の元で上級生、下級生のつながりの中で、育ててきたと感じました。軸を持つとはどういうことかという、自己実現力を付けていくということだと思います。自己実現を果たさないと自分自身がどうなりたいのかということがない中では、他に貢献するということは、迫力が足りないと思います。自分自身を育てて、なりたい自分になっていく過程で他の人のために尽くす力も発揮することができるようになりますと期待しています。残り少ないLABO活動を頑張ってください。
- SGH 活動生徒保護者
みなさんが原稿も読まずに自分の意見を話す姿をみて素晴らしいと思いました。このような貴重な取り組みをしている学校、LABO活動をする仲間、機会を与えてくれた家族に皆さん感謝してほしいなと思いました。将来社会に出るといろんな方がいます。特に皆さんが世に出る時代は外国人とお仕事をする機会が増えていくと思います。その中でそれぞれが軸を持ち、自分の意見が言えるということは共存して仕事をしていく上で必要になって来ると思います。今日ディスカッションで出ていた力やLABO活動を経て学んだことが役にたつと思います。女性リーダーはまだまだ少ないと思いますが、皆さんがこの経験を得たことで女性リーダーに一人でも多くなれるように親としては応援しています。